

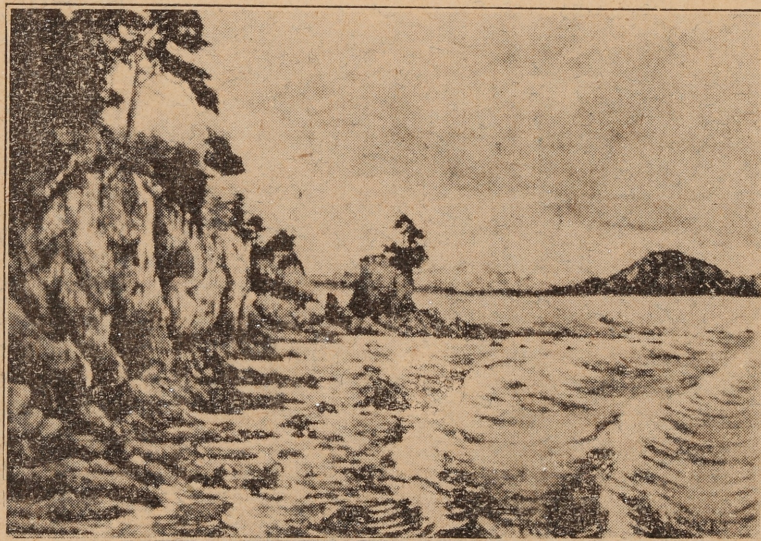
磨の浦(七四)の様な色彩の繪が好きだ。總て色彩の佳い繪で失敗するのは、矢張り色彩の様だ。否、そんな繪が多い様に見受けた。なんとか知つた顔のぐうたら兵衛を列べるのは實は知つて居ないのかも知れない。

余が野外寫生の端緒と所感

近江 金 森 宗 造

余が書生時代、丁度『みづゑ』第一號發行當時には、醫學の研究中であつた所が、醫學の解剖圖などを見ると、水彩畫の原色版で美しいのがやつてあるので、一つ摸寫して見んものと、十二色入七八十錢の學生用の畫具箱を求めて、畫いて見ると、便利なる記憶法であつたから、必要のものだけ模寫して、勉學の資とした。後皮膚病學教室へでも行くと、病者の皮膚の狀態色彩等の工合を記憶するの必要上、實物寫生の必要を感じて、ちよいと室内の寫生をする中に、繪畫に於ける趣味を覺へ、野外寫生の端緒を得た。

さて、野外に出て寫生して見ると、室内とは異りて、閉口したのは色彩なり陰影なりが時々變化すると、木の葉や幹の皮の龜裂迄一々書き現はすに如何にしてよきや、又近景の草木などの細部分が、眼に映じて大體の趣を現はす、



金 森 宗 造 筆

とか出來ぬのであつた。茲で『水彩畫葉』『みづゑ』等を見て研究しつゝあつた後、本業を此山間に營み傍ら爽快なる春の琵琶湖の風光に接し或は深山の風雪を寫して自然の趣を悟つた、以來余は自然を友とし師とし、傍ら『みづゑ』を指導者として愛讀してゐる。

楽しい一日

長野市花咲町

パ レ ッ ト

四月十八日。日曜日。快晴。セピヤクラの會員十名近くは約束の如く八時半妻科のお宮へ集合した。別役先生も見えて一行は安茂里村を指し春霞を排して出掛けた。際期の如く日本晴の好天氣、背はポカポカイやザリザリといやに暑い。丁度此の日は安茂里觀音のお祭なので行く人で目のまわる様だ。

汗臭い人と一所にゴタゴタになつて相生橋を渡つて行くと杏花は今が満開で安茂里一村は花で蔽はれ得も云はれぬ。淡紅濃白春の女神の色彩の巧なるを今更の様に痛切に感じた。

ア、僕にあの女神の様な腕があつたら……右へ行けば觀音に行くのだが一行は俗人(怒るだらうが)と別れて道を眞直に取り田甫へ出て思ひ思ひの所へ腰を据える事にした。

長閑な日だ。遠山の山腰の一刷毛の霞。路傍の若々しい草、ア、春だ、春に限る。

變てこなスケッチを二枚作つて歸つた。電燈が嘲ける様にピカ
ーリピカーリ。(四十二年作)

有益有趣味の寄書にして次號に廻せしもの多し諒焉

紹介

◎白樺 第一卷第一號 新に生れたる文藝美術雜誌にして、華
胃の貴公子達多く筆を執れり。本號にはクリンゲル、ベツクリ
ン、シュツツクの繪畫寫眞版、並にファイテュスのカット六種を
挿み、獨逸繪畫に於ける Neubeilstein と題する K K 氏の文章
をのせたり。體裁の上品なるは最も喜ぶべし(毎月一回一都十
八錢、麴町區麴町二丁目洛陽堂發行)

◎東京寫眞研究會第一回展覽會畫集第四輯 印畫十三點、うち
人物六枚風景七枚にして、精巧なる印刷に成れり。技術上に於
ける寫眞の進歩も、大なるものならんが、材料の取扱方に於て、
特に非常の進歩を見る。此畫集の如き、當事者以外、一般好事
家にも坐右の珍たらん(四六倍版六十錢、日本橋區本町二丁目
小西本店發行)

◎山岳 五週年紀念號 菊判三百五十頁、三色版コロタイ。寫
眞版等の山岳圖數十枚を挿入し、記事は、日本アルプスの巻と
して、中央及南アルプスに關する、十餘名家の登嶽紀行、並び

に山岳に關する有益の記事を以て全誌を充たせり(正價壹圓横
濱本町四丁目高野鷹藏方日本山岳會發行)

◎中央公論 春期附録號 小説には、花袋、葉舟、小劍、白鳥、
脚本には、鷗外の『生田川』あり。本文、東西兩大學總長は面白
く、久米氏の歴史と科學は再讀すべし(四拾錢、本郷四片町反
省社)

◎無名通信 秘密號 社會各方面にわたりて其内幕を公にす、
中には公然の秘密も少なからざれど、四六二倍二百頁、初めよ
り終り迄讀了せしむるは、編輯者の技倆凡ならざるが故ならん
(四拾錢京橋區元數寄屋町無名通信社)

◎早稲田文學 四月の卷 秋聲、星湖、未明、不規夫、秋江の
小説。雨雀、正雄、蕭々の脚本あり。高村氏の Exotisch の畫
家 Paul Gauguin 見るべし(四拾錢神田表神保町東京堂)

◎文藝俱樂部滑稽描 春の目永の讀物として極めて面白し(二
十五錢日本橋本町博文館)

日本水彩畫會新會友

| | |
|----------------|-------|
| 京都市寺町五條北入 | 北村定次郎 |
| 岡山縣和氣郡英保村吉永中 | 花岡祐太郎 |
| 福岡縣浮羽郡椿子村中河原 | 上木戸壽藏 |
| 長野縣福島町川崎本雄方 | 遷村喬會 |
| 長野縣長野男子師範學校 | 中村常雄 |
| 東京四谷坂町一一九、五姓田方 | 森非折 |
| 福島縣二本松町字若宮一ノ二九 | 菅野三郎 |